

公開講演会記録

コロナ以降の北朝鮮の動向

— 離隔から再びの開放へ —

著述業・訪朝コーディネーター 北岡 裕



■ コロナで一変した世界と北朝鮮

コロナの前と後で世界は一変しました。北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国でもコロナは「建国以来の大動乱」と呼んだほどの衝撃でした。北朝鮮は究極のゼロコロナ政策、国境を封鎖し人の流れと貿易を完全停止することを選び、2023年に開放に転じました。本日は大きく変化する北朝鮮情勢についてお話しさせていただきます。

■ 北朝鮮の非核化は難しい

なぜ北朝鮮はミサイルの発射を続けるのでしょうか。2021年に発表した「国防科学発展及び武器体系開発5か年計画」に沿って北朝鮮は動いています。そして2017年には核武力の完成、事実上の核保有宣言をしました。北朝鮮の非核化は難しい。「核放棄は国を亡ぼす」というリビアやウクライナの教訓があるのは想像に難くありません。そして大きな通常兵器の差。例えば航空戦力は米韓に比べ機体は古く燃料不足のため練度も低い。この差を無力化するのが核です。核武力建設と経済建設の並進路線（2018年に

終了宣言）を北朝鮮は進めてきました。核開発と経済建設を同時に行うことと解説されることもあります。訪朝する案内員の説明は違います。訪朝すると「未来科学者通り」のような大規模開発された地区を案内されます。核を持ったことで通常兵器に費やしていた資材、人材と資金を経済建設に回すことが可能となった、その結果が大規模開発だということです。工事現場を見ると確かに朝鮮人民軍の兵士が多く働いていました。つまりすでに北朝鮮の経済は核ありきになっているのです。そして朝鮮総連の機関紙『朝鮮新報』の元記者

が北朝鮮の地方都市を訪れたときの話です。現地の人「90年代後半の未曾有の経済難（苦難の行軍といえます）でここでも多くの人が死んだ。でもわが国は核開発を続け、彼らの犠牲があって現在核保有国になれたのだ。非核化なんてあり得ない」と話したそうです。つまり核兵器にはシンボルとしての意味もあります。さらに北朝鮮は憲法に「責任ある核保有国として戦争を抑止し、地域と世界の平和を守るために核戦力を高度化する」という文言を盛り込みました。こうして法的にも不可逆的な環境が作られてしまった現状では、北朝鮮の非核化は難しいといわざるを得ません。

■なぜ北朝鮮は崩壊しないのか

厳しい統制と監視。政治犯収容所や公開処刑。恐怖政治により崩壊しないのではと考える人は多いでしょう。

少し視点を変えてみましょう。朝鮮民族の姓の種類はわずか300ほど。かつ特定の姓に偏りがあります。また民族発祥の地名を本貫と呼び、同じ金

氏でも金海金氏、安東金氏は本貫が違う他の一族とされます。韓国人は自分の本貫を知っています。私の韓国語の先生も4、5歳のころからあなたの本貫は○○で、族譜（系図）の位置はここだと祖父母に教えられたそうです。特に意識するのは恋愛と結婚の際。かつて韓国では8親等以内の血族の結婚が不可であり、97年に憲法裁判所で違憲判決が出るまで、8親等を超えても同じ本貫同士の結婚はできませんでした。今でも意識する人は多く、気になる異性が同じ苗字だったらまず本貫を確認します。また縁のない土地に住んでも本貫が同じ人たちでつながることができます。休日に遊んだり、仕事を融通しあったり。本貫と族譜は今も人間関係の柱として韓国では機能しています。

ところが北朝鮮では本貫は分断直後に廃止されたそうです。北朝鮮で人に出会うたびに本貫を聞いて回ったのです。「知らない」と答える人が多く、「本貫とは何ですか」と私に聞く人もいました。韓国人の感覚からするとあ

り得ない発言です。

北朝鮮には配給制度があります。例えば子どもが学齢になると制服と鞆、教科書などが無償で「父である金正恩元帥様からの贈り物」として渡されます。実の父親がこれをそろえるのは難しい。さらに金日成主席は日本から独立を勝ち取り、金正日総書記は自主独立を守り、金正恩総書記は今も米韓の脅威に立ち向かっているなどと徹底的に教育される。実の父親と比べその甲斐性と実績は圧倒的です。民衆蜂起が起きない一つの理由は、北朝鮮は既存の人間関係の柱を壊し首領を国父として朝鮮労働党を母とする疑似家族国家を作り上げたこと。首領に弓を引くことは父殺しのタブーとして、強烈な抑止力になる。そのような牢固な体制と徹底した教育を、建国以来76年続けてきたこと。それが強く作用しているからといえるでしょう。

■核とミサイル以外の北朝鮮

核とミサイルだけに注目しがちですが、金正恩時代になって教育に力を入



科学技術殿堂。金正恩時代の教育強化を象徴する建物（2016）

れていることも注目です。義務教育は11年↓12年となり、科学技術殿堂や平壤国際サッカー学校の建設など教育に力を入れています。また、北朝鮮の識字率は100%に近いとされています。教育の強化が体制の強化につながることを理解しているのでしょう。

そのため中国の縫製工場で働く北朝鮮の出稼ぎ労働者は基礎教育レベルが高く人件費も安く、勤勉で人気です。勤勉さも北朝鮮の注目ポイントです。もし日本の会社にくるに仕事もしない



船橋メリヤス工場で働く女工。その勤勉さは魅力（2013）

ぐうたら社員がいたら、叱責、減給を経てやがて解雇されるでしょう。でもぐうたら社員の立場で考えると「あの職場は合わなかったな。次探そう」で終わります。

しかし北朝鮮ではぐうたら社員の存在は大ごとになります。国や党に対しよくない考えを持っているのでは、と生活総和と呼ばれる会で徹底的に自己批判、相互批判されます。場合によっては炭鉱のような厳しい職場に異動させられます。ペナルティが大きいのです。

また金正恩時代になって目立つのは国産日用品の充実です。日本人訪朝者にも大人気の大同江ビール。日用品のデザインも以前より洗練されました。一番人気は化粧品。在日コリアンの男性は現地で仲良くなった女性に北朝鮮国産の化粧品をプレゼントするそうです。その結果「化粧品ならA社、お菓子ならB社、ビールは大同江ビール」という、嗜好とこだわりのある消費傾向が生まれています。そして携帯電話の普及。朝鮮総連の機関誌『朝鮮新報』は、2024年3月1日付記事で、2018年現在で600万〜1000万台が普及していると伝えました。スマホタイプで外国語辞典や百科事典、ゲームのアプリ、気に入った相手がいたらBluetoothで接続し連絡先を交換する機能もあるのだとか。平壤市内でも携帯電話で話しながら歩く人の姿は普通になりました。

■ アメリカ、韓国との関係

朝鮮戦争以来の仇敵といえるアメリカとの関係。平壤の戦勝記念館を訪れ

た際、案内してくれた若い女性兵士はアメリカのことを終始「米帝の野郎」と呼びました。若い女性でも「野郎」と呼ばないといけないのです。

トランプ大統領の就任当初は「ロケットマン!」「老いぼれ!」と汚いことばの応酬が目立ちましたが米朝首脳会談は3回行われました。トランプ大統領はその独特の性格も合わせ北朝鮮の好むトップダウン型の指導者でした。

2019年2月の第2回米朝首脳会談で北朝鮮は人民生活に関する経済制裁解除と引き換えに、寧辺の核施設を廃棄する切り札を切りました。このことはすぐに北朝鮮国内にも伝わり、兵士や人民から反対の嘆願書が多く届いたといえます。トップの判断への異例の反応です。しかしアメリカは乗らなかつた。ここが分岐点でした。その後交渉は進まなくなりました。

またこれまで韓国の大統領が保守派か進歩派かによって南北関係は大きく変わりました。尹錫悦大統領は保守派、北朝鮮に対して厳しい姿勢で臨んでいます。文在寅大統領は北朝鮮との対話、

融和政策を進める進歩派でした。金正恩総書記と文大統領は2018年に3度南北首脳会談を行いました。その後南北関係は悪化。北朝鮮は2020年に南北共同連絡事務所を破壊しました。2024年1月に金与正朝鮮労働党中央委員会副部長は尹大統領を「自衛的な、当為的な不可抗力の軍事力を培うことに大きく『貢献』した『特等功臣』」、文大統領を「本当に聡明で秀でて、狡猾な人であった」と痛烈に皮肉のメッセージを表明しました。

中国との関係

朝鮮戦争を共に戦った中国との関係は「唇亡齒寒」の関係といわれます。中国はコロナによる国境封鎖前、対外貿易で9割を占めた命脈を握る存在で

す。しかし金正恩時代になってから関係は微妙でした。金正恩総書記の公式デビューから中朝首脳会談まで8年かかり、習近平国家主席は先に韓国の朴槿恵大統領と首脳会談を行っています。その理由には北朝鮮の核開発への不快感や、金正恩総書記の義理のおじにあたる張

成沢氏の処刑、金正恩総書記の異母兄、金正男氏の暗殺があるとされます。張氏は中国の窓口的存在といわれています。そして北朝鮮国外での金正男氏の生活には中国の援助があったようです。金正恩総書記とその一族を「白頭血統」と呼びます。白頭とは中朝国境にある聖山、白頭山のことを指します。万が一北朝鮮の国内情勢が不安定になり、中国が介入したとして、情勢が落ち着き新たな政権を作る際のトップは白頭の血統でないと落ち着かない。中国は金正男氏にその役割を期待していたと考えられます。張成沢氏と金正男氏。中国にとってのキーマンを殺されたことへの不満が冷え切った関係につながったのは想像に難くありません。

現在、関係はよくなっているようですが市民感覚は別のようです。訪朝経験の豊富な在日コリアンによると、90年代後半の未曾有の経済危機の際、中国も北朝鮮に食糧支援を行いました。送った穀物が実にひどかった。家畜の飼料か!という食糧に人民たちは怒ったそうです。また日本でも段ボール餃

子事件に象徴される中国食品への批判が高まった時期がありました。が、同時期北朝鮮でも中国製食品を食べた子どもが亡くなる事件があり、強い不信任感が広がったそうです。金正恩時代になって北朝鮮が日用品の国産化を進め、また中国製のコロナワクチン提供を断った理由は市民の声なのかもしれません。また中国人観光客は平壤訪問の際、羊角島国際ホテルに多く宿泊します。このホテルは外国人観光客が多く泊まる高麗ホテルや普通江ホテルと比べ、大同江の中州にあり市内へのアクセスがよくありません。北朝鮮の案内員に聞くと「中国人はうるさいしマナーも悪い。だから羊角島国際ホテルに泊めている」と笑って話してくれました。国と国との関係と市民感情はまた別のようです。

■ 日本との関係

1960、70年代を中心に多くの在日コリアンが帰国事業で帰国しています。北朝鮮国内では厳しい環境に置かれたこともあったそうですが、2022年に海外同胞権益擁護法成立という

大きな動きがありました。在日同胞の権益を擁護保障するこの法律の成立の背景には、北朝鮮は公式には認めていませんが、金正恩総書記の母親の高容姫氏が帰国者という理由が推測されます。大阪・鶴橋に生家跡とされる場所が今も残っています。

人が動けば物が動く。帰国者と共に持ち込まれた、仕送りされた日本製品は北朝鮮国内でも高く評価されました。今もユニクロの服、医薬品などが人気です。ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社（シンガポール法人が北朝鮮にジュースを輸出しています。北朝鮮ではジュースは단물（タンムル＝甘い水の意）と呼ばれるのですが、このジュースはそのままポッカと呼ばれ人氣ぶりがうかがえます。

日朝関係が最も接近したのは1990年、金丸信元副総理の訪朝の年です。その後北朝鮮では国交正常化への期待から日本語ブームが起こり、平壤外国語大学には日本語学部ができました。北朝鮮がトップダウンの交渉を好むのは、金丸元副総理の訪朝のときも同じで、

金日成主席は親しい関係の社会党の田辺誠委員長を置き去りに金丸元副総理とのトップ会談を行いました。朝鮮総連関係者によると小泉純一郎、安倍晋三両政権の評価も成立当初はよかったそうです。トップダウンの交渉が期待できることがその理由です。一方で友好的な関係の社民党も加わっていた民主党政権の評価は芳しくなかったそうです。「議員の出身母体がさまざまな民主党政権との交渉で、トップダウン交渉の期待は難しい」という見方が理由です。

その後拉致問題解決ありきの日本、過去清算ありきの北朝鮮との会談は平行線をたどります。現地案内員と話すと、北朝鮮は金正日総書記が拉致を認め謝罪した、完全無欠の指導者である将軍様が頭を下げたことへの衝撃と、これだけ譲歩したのだから日朝国交正常化は進み、賠償金も入ってくると純粹に信じていたと感じます。この読み違いが大きかった。その後2014年のストックホルム合意から拉致問題の再調査が始まりました。その調査報告の中で2名の拉致被害者の生存情報の提

示があったものの、日本側はその報告書を受け取らなかったとの報道もあります。2016年に北朝鮮の核実験と弾道ミサイル発射に対する日本政府の独自制裁から再び交渉は止まり、2023年は2度ほど非公式の接触がありました。大きな進展はない状況です。

■ロシアとの関係

旧ソ連は北朝鮮の経済を長く支えてきました。かつては富める北、貧しい南とまでいわれていました。ソ連崩壊が北朝鮮経済に大きなダメージを与えます。さらにショックだったのは1990年のソ連と韓国の国交樹立です。

しかしその後金正日総書記とプーチン大統領の関係はよく、朝鮮総連関係者によると会談の際、プーチン大統領は年上の金正日総書記のことを兄貴と呼んでいたと聞いたことがあります。ロシアにとって北朝鮮は、東アジアの玄関口として不可欠な存在です。不凍港の羅津港とハサンの間を鉄道でつなぎました。北朝鮮にとってもロシアはシベリアの伐採工など、貴重な外貨

を稼ぐ出稼ぎ労働者の派遣先です。

さらにウクライナ問題で両国はさらに接近します。「NATOは東方拡大を推し進め、欧州の安全保障環境を破壊してきた」と北朝鮮外務省は早々にロシア支持を表明しました。その後北朝鮮製の弾薬がロシアに渡っていると言われています。そして人工衛星技術などが欲しい北朝鮮。両国の思惑は一致しています。ウクライナ問題が長引くことで北朝鮮の軍事力はさらに上がる懸念があります。またコロナ後に北朝鮮を初めて訪れた観光客はロシアからでした。朝露関係は蜜月にあるといえます。

■他の国との関係

北朝鮮と国交を結ぶ国は約160か国。平壤滞在中、私は毎晩ホテルのバーに遊びに行くのですがエジプト人とよく話しました。彼らはエジプトのオラスコム・テレコム社の技術者でした。北朝鮮の携帯電話事業を提供する高麗リンク社は、北朝鮮の通信省とオラスコム社の合併企業ですが、3〜6か月交代で約20名のエジプト人技術者が平

壤に駐在していました。

なぜエジプトなのか。中東戦争です。中東戦争の際に北朝鮮空軍のパイロットがエジプト空軍に加わり戦いました。エジプト空軍の高位層がオラスコム社と関係が深く、北朝鮮の携帯電話事業に参入できたというのです。

バーではアメリカ人とも親しくなりました。彼はキリスト教の慈善団体の一員として、結核のラボを作るために訪朝していました。他にも平壤科学技術大学という、オール英語でIT関係の授業を行う大学にもアメリカは多くの教員を派遣していました。アジア・アフリカ諸国との関係は金日成主席の時代から長く、また金正日総書記の時代にはEU諸国と国交を樹立しました。700兆円ともされる豊かな鉱山資源を持ち、勤勉で教育レベルの高い安価な労働力。ひとたび開放されれば旺盛な消費が期待できる2500万人の市場は魅力です。世界はしたたかにダブルスタンダードで動いています。北朝鮮に制裁一辺倒で交流なしという日本は、世界的にむしろ珍しいといえます。

■ コロナ以前の国内政策と離隔と統制

北朝鮮はコロナ直前まで厳しい経済制裁をインバウンドで解決しようとしていました。世界レベルの規模の馬息嶺スキー場の建設（2013）、元山・葛麻観光地区の大規模開発を進めました。コロナ直前には軽飛行機で平壤上空を飛ぶ、平壤市内をサイクリングするなど非常に魅力的なプランが増えました。

私が2010年に訪朝した際、北朝鮮の案内員から面白い観光の企画はないかと聞かれました。北朝鮮の航空会社、高麗航空は、世界一危ない航空会社ともいわれますが、航空ファン垂涎の貴重な旧ソ連製の飛行機が多く残っています。この古い機体を中心としたプランなら、たくさん観光客が来るはずだよと提案したら、古い機体という表現がよくなかったようで渋い顔をされました。しかし2016年に北朝鮮は元山国際親善航空祝典というイベントを行います。そこでは古い飛行機の展示に加え航空ショーも行い、世界の

航空ファンが多く訪れました。この6年の間に、ちょうど金正恩時代の始まりとともに大きな価値観の転換が起こった。古いものをレトロと愛でる愛好者が世界にはいて、イデオロギーに関係なくお金を落とすことに北朝鮮は気づいたのです。その後、コロナの発生により外国人の観光はストップ。元山・葛麻観光地区の開発もストップしています。これは大きな誤算でした。

さらに米韓の政権が代わりバイデン大統領、尹錫悦大統領と、交渉しにくい相手になりました。北朝鮮は両政権と妥協を伴う交渉をするのではなく、核とミサイルを強化し、次回交渉局面になった際に強力で有利な交渉カードとしようと考えたのではないのでしょうか。同時にコロナ感染防止を理由に国境を封鎖し国内統制を進める、平壤文化語保護法と反動思想文化排撃法が成立しています。これらの法律は近年韓国ドラマ、K-POPが北朝鮮国内でも密かに流通し、その影響が特に若い世代のことばづかいやファッションにも現れているとされ、それらを厳しく



最近破壊されたと報道のあった祖国統一三大憲章記念塔（2010）

取り締まるものです。ことばを縛る怖さとその後の禍根の大きさは沖縄での方言札、皇民化政策で台湾、朝鮮半島で日本語の公用化を進めた歴史を持つ日本人ならよく知っているはずです。人類史においても大きな出来事が現在進行形で行われています。

さらにここ数か月で韓国への姿勢が変わりました。金正恩総書記自ら大韓民国、韓国と呼ぶようになりました。これまで北朝鮮で韓国というところ「南朝鮮です！」と怒られたものです。「現在は政

治的な問題、歴史的事情からやむなく分断しているがいずれ我々は統一する。韓国といういい方は、分断状況を追認するようでしからん！」というのです。2023年のアジア競技大会のサッカーの試合、朝鮮中央テレビの中継には「(北) 朝鮮 対 傀儡」と字幕が出ました。傀儡は韓国を最高レベルで侮蔑する表現です。この大会に同行した在日本コリアンの方によると、大会中南北選手間の関係は過去最悪で、南北間の選手間の会話、交流もなく、北の選手たちも韓国を傀儡と呼んでいたそうです。さらに統一を放棄する方針を表明し、韓国のことを第一の敵国とまで呼ぶようになりました。私の周りの多くの在日コリアンの友人知人も大きなショックを受けています。というのも、朝鮮総連関係者を含む多くの在日コリアンの出身地は朝鮮半島の南側、韓国です。ふるさとを敵といわれた衝撃。さらに日本国内では朝鮮総連と韓国民団は交流もあり、共同でイベントや運動を行うこともありました。これまでの関係が続けてきた交流事業はこれからどうなるのか。朝鮮総

連関係者も気をもんでいます。日本にも影響が及んでいます。

■ 北朝鮮経済を立て直すサンフレッチェ

2015年に北朝鮮南部の沙里院市を訪ねた際、地肌の見えた山と脆弱な堤防、底の浅い川を見ました。大雨が降れば洪水が起ころのは素人目にも明らかです。肥料の不足や種苗の問題など、北朝鮮の農業は一時的な天候不順によ



平壤の発展を象徴する未来科学者通り (2016)

る問題ではない構造的な問題を抱えています。もともと朝鮮半島北部は平地が少なく、寒冷な気候も相まって農業には不向きな土地が多く、それが北朝鮮の長引く食糧問題につながっていました。

2023年は豊作との報道が相次ぎました。穀物は目標の103% (朝鮮労働党中央委員会第8期第9回総会拡大会議より)。在日コリアンの北朝鮮経済専門家によると肥料の増産と、灌漑工事に軍を投入したことが奏功したと推測されるということです。ロシアの提案した食糧援助を断ったというタス通信の報道もあり、中国の劉国中副首相は2023年9月の訪朝の際「中国は今後農業と医療衛生の分野で援助を行いたい」と表明しています。食糧支援ではなく農業支援という表現に注目です。先の北朝鮮経済専門家の方によると中国支援農場という施設が北朝鮮国内にあり、ここをモデルとしてノウハウを北朝鮮の農場に反映させるのが農業支援の内容ではないかということです。農業の構造的な問題の解決ができれば、食糧難の解決も期待できます。

私は今、北朝鮮経済には追い風が吹いていると見ています。一つはウクライナ問題長期化に伴う特需。次に農業の構造的課題の解決への期待。さらに2023年8月に採択された観光法。より魅力的な観光プランを外国人観光客に提供できれば、インバウンドにより大きく経済状況は好転するでしょう。このサンフレッツェに注目していきたいと思います。

■ 日朝関係の未来

弾道ミサイルの発射の際に日本政府が「北京の大使館ルートで抗議した」と報じられることがあります。以前、朝鮮総連関係者に聞いたところ「北京の北朝鮮大使館に対してFAXを送っている」のが「北京の大使館ルート」で、北京市内で非公式に日朝大使館関係者が接触しているのではないのです。そして北朝鮮国内でも中国人観光客の悪口はよく聞きますが日本人はゼロ。「わが国に來ないし話しかけてもこない。そんな日本人のイメージなんてゼロ」と厳しい一言を私に放ったのはホ

テルのウェイトレスさん。悪名は無名に勝るとはいいますが…。

なぜこうなってしまったのか。短期崩壊論への固執が原因ではないかと感じます。金日成主席が亡くなった1994年ごろから、北朝鮮は遠からず自壊するだろうという見方があり、私も当時そう考えていました。しかし北朝鮮の体制は今も続いています。2023年で建国75周年。金正日時代を経て金正恩時代も10年を超え金正恩総書記はまだ40代。さらに次世代の尊敬するお嬢様の姿を見るまでになりました。この実績は認めないといけません。その間北朝鮮は核保有国になり、日本抜きで米朝首脳会談も行いました。さらに2022年にアントニオ猪木氏、金丸信吾氏（金丸信元副総理の子息）と日朝関係のキーマンが亡くなりました。その後を担う人がいないことは問題です。北朝鮮の案内員の熱意も薄く「なんで日本語なんて専攻したのかな。中国語やロシア語を専攻した友だちは今、大活躍しているのに」と私に愚痴るほどです。彼らが北側の日朝交流の最前

線の存在というのは実に寂しいことです。そして日朝貿易もゼロ、すでに制裁の材料も尽きています。自壊するか日本の厳しい制裁と強い姿勢にいずれ「ごめんなさい」と頭を下げてくるだろうという楽観的な見通しに期待し過ぎたといえます。

岸田文雄総理は2023年「条件を付けずに金正恩総書記と向き合う決意」を表明しましたが、その直後岸田総理に会った方は「総理の熱意はあまり感じられなかった」と話していました。その時期に首脳会談を行っていれば、日本は衆議院解散に向けて岸田内閣の支持率の上昇が期待できて、建国75周年を前に人工衛星の発射を2回失敗していた北朝鮮にとってもいい実績となったのではなかったのかもしれませんが。中朝露の接近はより明確に、また強固なものになりました。アメリカに生活必需品の経済制裁を解除する代わりに、寧辺の核施設を放棄するような大きな譲歩を伴う交渉を行う必要性は薄くなりました。金与正副部長の最近の発言から日朝首脳会談の期待も膨らみ

ます。拉致問題抜き交渉の意味があるのかという疑問もありますが、行わなければならないと思います。

ただし行うべきは会談ではなく面談。即、劇的な成果を期待せず、今後10年先を見据え、失われた信頼関係の構築をしつつ、北朝鮮側の狙いを探り回数を重ねていく必要があります。個人的には在日ルート、例えば朝鮮学校への補助金停止措置の解消などを行えば効果的なシグナルとなると思いますが、今の日本の世論がそれを許すのかという懸念もあります。

■ 今、必要なこと

拉致問題以外にも問題はあります。日朝貿易債務。コリアン系の金融機関への公的資金投入。また最近では減りましたが、日本海沿岸に漂着する北朝鮮漁船の撤去費用は自治体が負担しているようです。さらに1995年に米を50万トン供与しているのですが、このうち有償分35万トンについて支払いは初回のみで以降元金、利子共に支払いはない状態です。

拉致問題だけではなくこれらの問題についても主張する必要があります。日朝交渉は想像以上に難航し、また拉致問題だけが問題ではないと改めて考えなければなりません。

私たちに今、求められているのは、北朝鮮がそう簡単には崩壊しないと認識すること。今の体制が当分続くと考ええることです。さらに日本のすぐ隣にあるのは「世界から孤立した、崩壊寸前の経済難のならず者国家」ではなく「中露の後ろ盾を持つ核保有国」。その前提に立ち、厳しい交渉や交流を行っていかねばならないと認識を改め、また覚悟を決めることではないでしょうか。

※写真はいずれも著者撮影。

(2024年1月25日・公開講演会)

著者略歴(きたおか・ゆう)

76年生まれ東京在住。韓国・梨花女子大学言語教育院修了。著書に『新聞・テレビが伝えなかった北朝鮮』(角川書店・共著)。

中学生時代に聴いた平壤放送をき

かけに北朝鮮・朝鮮民主主義人民共和国に関心を持つ。2004年から16年まで5回訪朝。16年は議員訪朝団引率。北朝鮮側から見学地の大幅譲歩を引き出す。

現在はRecord China ホームページでコラム連載。これまで『週刊金曜日』(金曜日)、『週刊SPA!』(扶桑社)、『Think Asia』(一般財団法人霞山会)にコラム多数執筆。在日系メディアの『朝鮮新報』、『月刊イオ』(朝鮮新報社)、『朝鮮商工新聞』(朝鮮商工新聞社)でも日本人として異例の連載を持ち読者から好評を得る。

また一般社団法人内外情勢調査会を中心に大学特別講師、専門書店、映画館でのトークライブ、日朝友好団体、朝鮮学校、民族派勉強会でも講演経験多数。さまざまな立場の多くの現地の人との会話、在日コリアンの視点を入れ北朝鮮の斬新な見方を伝える講演は好評を得ている。